

「教えすぎ」でも「任せきり」でも人は育たない

～指導者に求められる“仕掛けと”場づくり“～

講師のプロフィール

飛田 尚彦（とびた なおひこ）

株式会社 TOPTOPCOMPANY 代表取締役

前 ソニーHC BRAVIA Ladies（現 Sony Hockey Club Stellars）監督



略歴

富山県小矢部市（石動）生まれ。（日本でも有名なホッケーが盛んな町）

小学5年でホッケーを始め、6年生で全国大会4位（キャプテン）

中学時代も2回全国大会出場。3年生は全国3位（キャプテン）

高校時代は国体3位

大学は天理大学へ進学（ホッケー強豪校）1年生のU21の日本代表に選出

20歳で初めて代表に選出→10年間代表選手として活躍

大学卒業後23歳の時に、オーストラリア最高峰のプロリーグに日本人で初めて参戦

その後、ベルギーの強豪チームのプロテストを受け、合格→欧州でプロ選手として活躍

日本へ帰国後は、ビジネスの世界へ飛び込んで今に至る

テーマ設定の背景：

「主体性を育てたいが、選手に任せると動かない」「教えすぎると指示待ちになってしまう」・・・多くの指導者が抱えるこの悩み！！

選手が自ら考え、動き出すために必要なのは、一方的な指導でも単なる放任でもなく、指導者による事前の「環境の準備」と「枠組み（モデル）の設計」です。

本研修では、選手が自走するチームを作るための実践的な”仕掛け“と”場づくり“の技術が学べると思います。

トップアスリートを育てる指導者の条件

～厳しさだけでは伝わらない時代に～

講師のプロフィール

土屋裕睦（つちやひろのぶ） 大阪体育大学教授。博士(体育科学)。

公認心理師、スポーツメンタルトレーニング上級指導士

略歴

1964年5月岐阜県生まれ。岐阜県立岐阜高校から筑波大学・大学院修了後、復旦大学へ留学。帰国後、筑波大学文部技官、助手を経て現職。これまで約35年にわたりプロスポーツチーム（野球・サッカー・ラグビー・卓球）や様々な日本代表チームにてメンタルトレーニング指導を担当。五輪2024パリ大会には日本選手団の安全・安心を守るウェルフェアオフィサーとして帯同し、約1か月に渡り選手村で活動。選手の心理相談の他、JSPO コーチデベロッパー（コーチのコーチ）として公認コーチ養成にも尽力。専門はスポーツ心理学、スポーツカウンセリング。



社会的活動

日本スポーツ心理学会会長、日本体育・スポーツ・健康学会体育心理専門領域理事。文部科学省「スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議」委員、日本オリンピック委員会アントラージュ部会員・科学サポート部門員、日本スポーツ協会「NO!スポハラ」実行委員。地域では教育委員や部活動のあり方に関する有識者会議委員等を歴任。著書にスポーツ庁・スポーツ協会監修の「実践！グッドコーチング」（PHP 研究所）、また本公演に関連する新刊として「アスリートのためのこころの強化書」（草思社）他、多数。

テーマ設定の背景：

演者は長年日本代表選手やプロ選手など、トップアスリートのメンタル指導に携わってきました。この間、特に心理学などスポーツ科学を取り入れたコーチングの進歩は目覚ましく、そのことが国際競技力の向上にもつながっています。一方、部活動や地域クラブなどでは、不適切指導に関わる相談窓口への通報は過去最多となっており、スポハラの根絶が課題となっています。そもそも何がハラスメントで、どうすれば予防できるのかが分かりづらく、コーチとしては良かれと思ってやったことがスポハラと言われることもあります。本研修会では2023年から始まった「NO！スポハラ」活動を紹介し、厳しい指導とスポハラの境目について理解を深め、さらに競技力向上と人間力育成の両方を同時並行的に目指すグッドコーチングについて研修を行います。具体的には、アスリートの主体性を高めるための条件、ティーチングとコーチングの違いやその実践的な活用法について紹介します。また、要望があれば拙著「アスリートのためのこころの強化書」（草思社）で紹介した実際の選手に対する指導事例やメンタルトレーニングの具体的な方法についても、一部実習を取り入れながら研修を行う予定です。面白くてためになり、かつ明日からの実践に役立つようなコーチング方法を探ります。次世代を担う子どもたちの笑顔のために、新しい時代にふさわしいグッドコーチングの具体的な方法について、一緒に楽しく学びましょう。どうぞよろしくお願いいたします。